

原発再稼働 怒れる元寇の島

無職

(福岡県 69)

玄界灘に浮かぶ長崎県・鷹島は、元寇ゆかりの島だ。人口約2千人。その島がいま、佐賀県玄海町にある九州電力玄海原発の再稼働で危機に直面している。

立地自治体である玄海町と佐賀県による同意手続きが終わり、秋にも3、4号機の再稼働が見込まれる。島の漁師らは7月、漁船66隻を集結させ、玄海原発の沖合で「安全な海を子孫に残せ」と抗議の声を上げた。

鷹島のある長崎県松浦市は全域が玄海原発の30⁺圏に入り、鷹島は最短で8・3⁺。島と九州本土を結ぶ唯一の陸路、鷹島肥前大橋を渡って避難すれば、

玄海原発にいったん近づいてしまふ。しかし九電は、国のエネルギー基本計画で「立地自治体等関係者の理解と協力を得る」とされていることを根拠に再稼働の同意権は立地自治体に限るとし、周辺に認めていない。

これはおかしいと思う。国は原発30⁺圏の自治体には避難計画策定を義務つけているが、鷹島のように避難経路の確保が難しい地域もある。原発に近い場所ですら住民が置き去りにされていいのか。再稼働の同意権を周辺自治体にも与え、避難計画が実現可能でなければ再稼働できないような法整備に、地元議員らが先頭に立って取り組む義務があると私は考える。